

sz

iniciály

Karel Adamus / Irena Czepcová / Marie Butula  
Bogusław Dziadzia / Pavla Krkošková Byrtusová / Martin Krkošek  
Katarína Qi / František Kowolowski / Władysław Kubień  
Dáša Lasotová / Lucie Žilák Labajová / Krystyna Pasterczyk  
Adam Molenda / Pavel Noga / Magdalena Szadkowska  
Aleš Szotkowski / Ladislav Szpyrc

INITIALS展の共通テーマは、出展アーティストの名前や苗字の頭文字、つまりイニシャルやモノグラムである。

Excerpt from Wikipedia: *頭文字*（とうじ、ラテン語のinitium「始まり」、動詞のin-ire「入る、入る」に由来）とは、タイポグラフィにおける単語の最初の文字のことで、大きさ、色、形によって他の文字と明確に異なる。通常、ページ、章、段落の最初にある。

数十年前までは、たとえばハンカチやシャツ、お菓子以外の衣服に名前のイニシャルを刺繍したり、荷物の革に刻印したりするのが一般的だったが、現在では、より高価な仕立ての良い衣服にのみ見られるようになった。これらの（通常は装飾的な）名前の頭文字はモノグラムと呼ばれる。

今日、私たちは活字やそのほかの芸術的処理を使った仕事を、たとえば視覚的な詩の創作、タイポグラフィ・ポスター、ロゴタイプ、書籍のタイポグラフィ、広告などで目にすることができる。

文字や文章は、ここではそれ自体が記号であり、芸術的な内容で豊かになっている。それはイメージであり、オブジェである。

この展覧会では、2つの世代の作品を見ることができる。1989年以前に活動を始めたアーティストと、1989年以降に活動を始めた若い世代のアーティストだ。すべてのアーティストがティエンシン地方（Jablunkov, Třinec, Český Těšín, Cieszyn）で活動しているか、出身である。

このプロジェクトは、2025年にチェスキー・ティエシンのプダ・ギャラリーで継続され、他のアーティストも「イニシャルズ」をテーマに作品を発表する機会を得る。

ここに作品を展示して下さったすべての方々、そしてこの展覧会の準備に協力して下さった方々、キュレーターのカタリーナ・チーさん、ヤヌシュ・ニエドブさん、その他トリネック・ライブラリーのスタッフに感謝したい。

ラディスラフ・シュピルック

## カレル・アダマス (※1943年、ピルゼン生まれ)

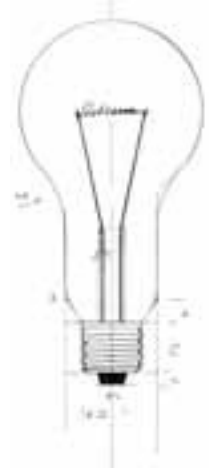
映像詩の作者、詩人、アーティスト。詩のイメージ」(1967-76年)、「煙草の詩」(1969-70年)、「動く詩」(1970-71年)、「物の詩、主題の詩」(1971-2002年)、「楽譜の詩」(1973-76年)を制作、

Minimal Metaphors (1974-80)、Flosages (1980-92)、Study Poems (1980-82)、Peripatetic Poems (1983-2003)、

風の詩(1983-2014)。1970年以来、国内外で数多くの個展を開催し、映像詩の集団展にも多数参加。2002年には、オパヴァの芸術の家で作品の断面を紹介した。1970年以来、視覚詩や具象詩をテーマにした雑誌やアンソロジーに作品を発表。主な著書に、1971年『10 Poems Pictures』(Edition Boczkowski)、1997年『Kassel, Soft Bottom』(自费出版)、『After the Bottom - Stories of Directions, Journeys, Schools, Pupils』(Trinec)などがある。2008年、ディブク出版社、プラハ。トジネツ在住。



オン・ザ・エッジ1、21x29,7cm、1977年



サイン、祝祭、21x29,7 cm、1977年

## イレーナ・チェブコヴァー (※1986年、トリネック出身)

2005年、Valašské Meziříčíの美術工芸学校を卒業。2006年～2013年、ガラス工房doc.ak.mal.のガラス工房を卒業。Ilja Bílek (ヤン・エヴァンジェリスタ・ブルキニエ大学芸術デザイン学部) 卒業。

のウスティ・ナド・ラベムで学ぶ。在学中、ポーランドのクラクフ美術アカデミー (Academy of Fine Arts im.クラクフのヤン・マテコ美術アカデミー、ハンガリーのペーチ大学音楽・視覚芸術学部で研修。

当初は、コンクリートを使った作品と、それをガラスとつなげる作品に注目していた。2010年以降、一貫して空間的なガラスオブジェにペンキを塗る装飾に取り組んでいる。現在のプロジェクトでは、光源を使い、インスタレーション・アートを志向する新しいテクノロジーを駆使している。ここでは、集合的な記憶というレイヤーを加えて、光と空間の概念をさらに押し進めている。



無題、発泡サンドブラストガラス、30x60 cm、2024年

**マリー・ブトゥラ**（※1984年、トリネック出身）  
ブルノの美術学部を卒業し、画家、デッサン家として活躍している。  
また、ブルノのフレダ・クラブでフルタイムの音楽劇作家でもある。ブルノ在住。



「カール、答えますか？ いいえ」 デジタルプリント、キャンバス、20x30cm、2024年

文化科学者、社会学者、人文科学博士、カトヴィツェのシレジア大学人文学部文化科学研究所教授。文化・芸術分野を研究テーマとし、芸術学部で講義を行う。

および教育科学を専門とする。研究・教育活動に加えて、その活動の重要な側面は、地域レベルでのさまざまな形態の協力組織である。

芸術活動では、絵画、文学、写真の分野で作品を残している。そのほか

絵画、写真、文学（『Devil's Underbrush』、『Blue Box to Look at the Meadow』など）など、科学的・研究的業績も多い。



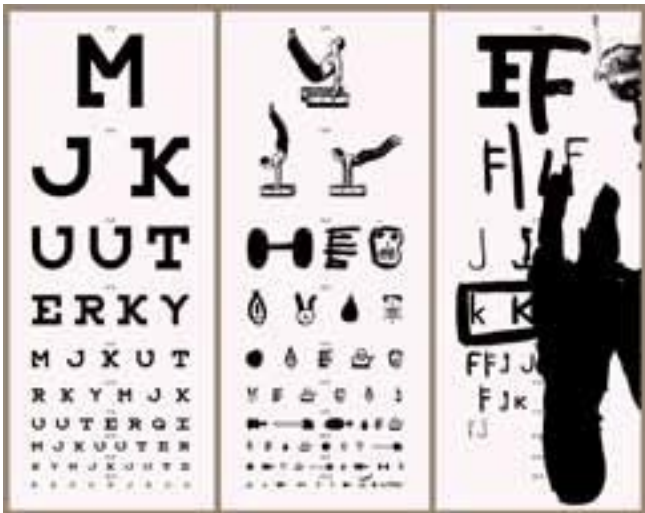
鶏の自画像、30x50 cm、2024年

## MgA. マルティン・クルコシェク

(\*1979年、ブジェロフ)

ブラハ応用芸術大学。ブラハ美術アカデミー・グラフィックデザイン第1スタジオにてインターンシップ。リンドフスキー (2007年)。

EVSプログラム・ジリナ・ザリエチエ・ステーション (SK) (2010-2011年) 内。



### オプトタイプ、85,5x64,5 cm、2024年

UutérkyはBeskydy山脈のふもとにある小さなグラフィック工房。創設者のマーティンとパヴラは自分たちでこの工房を立ち上げ、共同作業の出发点とした。この工房では、低価格の出版物、ジグソーパズル、Tシャツプリント、教育用ボード、ポスター、グラフィックなどを制作している。また、友好的な文化団体やアーティスト、その他の機関とのコラボレーションも好んで行っている。

そして同じような波に同調する。また、ナヴシとその近郊で開催される地元のイベントに参加することも欠かせない。

## パヴラ・クルコシェコヴァー・ビルトウソヴァー

(\*1981年、ヤブロンコフ・ナーヴシ)

オストラヴァ大学芸術研究所のインターメディア・スタジオ、ウスティ・ナド・ラベムの応用科学大学芸術デザイン学部の写真スタジオを卒業。



## カタリーナ・チー (※1989年、

### ジリナ生まれ)

ブルノのFaVUのマルティン・マイナーとルディエク・ラトウスキーのスタジオで学士号を取得。その後、マサリク大学教育学部のベトル・カメニツキーのスタジオで美術教育とビジュアル・デザインの修士号を取得。2016年よりトウジネツ市立ギャラリーのキュレーターとして勤務。GMTのほか、教師でもあり、5年目からは非営利団体Petrdlič help, z.s.でクリエイティブ・セクターに焦点を当てたEUプロジェクトに参加している。2020年よ

としても精力的に活動している (Galerie Dale Ostrava, Regional Gallery of Fine Arts in Zlín, Gallery Cela in Opava)。昨年は、ブルノITCプラットフォームのContextシリーズの一環として、いくつかの付随プログラムを準備した。建築ギャラリー・ブルノの通年コンセプトを担当し、エリック・ヴァニェックと共同で2つの展覧会を企画した。同時に産休に入る。

### 「JIA」 (家)、70x60x200cm、2024年

## フランティセク・コウォロフスキ (※1967年、トリネック生まれ)

ペインティング、パフォーマンス、インスタレーション、ビデオ、キュレーション、批評活動などを手がける。

ブルノの美術工芸学校 (1982-1986年)、ワルシャワの美術アカデミー (1986-1991年)、ヤン・タラシンとリシャルド・ヴィニャルスキの絵画スタジオで学ぶ。

大学での教育活動: 1996年から2002年まで、ブルノにあるヤナーチェク音楽芸術アカデミー舞台美術科で絵画とデッサンの外部講師を務める。

2004年より、ブルノ工科大学美術学部にて外部講師。2004年よりオストラヴァ大学芸術研究所絵画IIスタジオ主任。



Somnia、デジタルプリント、紙、14x100 cm、2024年、写真・ポストプロダクション: Tereza Samková

## ヴワディスワフ・クビエン

(\*1964年、ツジネック生まれ) 教育学者、画家、グラフィックデザイナー、写真家。ペインティングを中心に、応用グラフィック、オブジェ、インスタレーションも手がける。ほとんどの場合、ミクストメディアを使用する。また、伝統的な演劇的形態にとられない手法でアイデアを実現することもある。写真は、彼の抽象作品を補完し、バランスをとる要素である。



モノグラム、デジタルプリント、紙、プラスチック 40x50 cm、2024年





## ダーシャ・ラソトヴァー（※1951年、オストラヴァ出身）

チェコ共和国、ピロヴェツ近郊のヴジェシナ在住。1970年代後半からコンセプチュアルな作品を制作。1989年より個展、1981年よりグループ展を開催。1991年から2012年までオストラヴァ大学教育学部美術教育学科に勤務。視覚芸術の媒介、特にコンセプチュアリズムの分野を担当。現在、芸術創作、教育、キュレーション活動に従事。



パラフィ、彫刻入りプレキシガラス、21x21cm、2024年

## ルーシー・ジラク・ラバヨヴァー（※1981年、トリネック出身）

オストラヴァ美術アカデミーでグラフィック・アートを、ブルノ舞台芸術アカデミーで舞台美術を学ぶ。2010年より主にチェコ・スロバキア共和国の劇場舞台美術に携わる。オストラヴァのペトル・ベズルチ劇場、ブルノのフサ・ナ・プロヴァーツク劇場、ブルノ国立劇場、ラドスト劇場、シュヴァンドフ劇場、チェコ・スロヴァキア国立劇場と定期的に協力している。ブラハまたはズリーンの市立劇場で公演。グラフィックアート、空間インスタレーション、ドローイングを中心に活動。



無題、36x11 cm、2024年



## クリスティナ・パスターチク (\*1960年、ジャスワ出身)

ビジュアル・アーティスト、彫刻家、インスタレーションやオブジェの作家。カトヴィツェのシレジア大学チエジーン分校教育学・芸術学部で学ぶ。在学中、Jerzy Wroński教授のプログラムの実施に携わる。

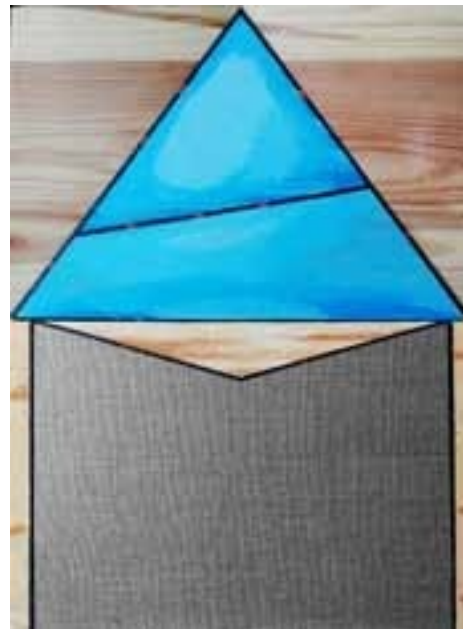
大学で美術を学ぶ。1986年、ヤン・ヘルマ教授の彫刻スタジオでディプロマを取得。卒業後、出身大学で絵画・彫刻科の助手として働き始める。同時に、クシシュトフ・モルチネクとともに Andrzej Szewczykが共同で設立したMiejsce Gallery in Cieszynに参加。彼女の作品は以下の展覧会で紹介されている：Status quo、Centrum Rzeźby Polskiej Orońsko（1996年）、ワルシャワ国立博物館（1996年）、Alabaster、Bielska BWA Gallery（2012年）、Falling Upwards、Municipal Gallery、Tóinec（2013年）。



モノグラム「KP」、木製ゴム、スワロフスキー・クリスタル、36,5x36x4 cm、2024年

## アダム・モレンダ (\*1964年、プシュフ生まれ)

カトヴィツェのシレジア大学とクラクフの美術アカデミーを卒業。クラクフ美術アカデミー絵画科博士課程修了。現在、シレジア大学教授、チエジーン美術研究所勤務。絵画における彼の関心はギリシア・キリスト教の伝統に根ざしており、それはヨーロッパ全体の共通の遺産であると考え、いわゆる西欧世界のさまざまな地点や瞬間にその痕跡を見出す。彼はこれらの問題を検証し、示そうとしている。



AM - 微妙な存在のオブション, アッサンブラージュ, 油彩, アクリル, 板, キャンバス, 30x40 cm, 2023



**パヴェル・ノガ** (\*1969)、グラフィックデザイナー、大学教師。

プラハの美術工芸アカデミーを卒業後、ブラティスラヴァの美術アカデミーで博士号を取得。ズリーンのトマス・バタ大学でグラフィックデザインを教える。2023年、マルチメディアとデザインの教授に就任。グラフィック・デザインに関する著書を数冊執筆し、国内外で数多くの展覧会に参加している。

主にポスターやフリーグラフィックを展示。ヴェロポーランド在住。



ネクスト・ナイト、50x20cm、2024年

**マグダレーナ・シャドコフスカ** (※1983年、ウァスク出身)

カトヴィツェのシレジア大学芸術学部で視覚芸術の芸術教育を学ぶ。2010年、アダム・モレンダの絵画スタジオでディプロマを取得。2010年、アダム・モレンダの絵画スタジオでディプロマを取得。2013年、母校の博士課程に入学。芸術活動とは別に、文化普及の分野でも実践的な活動を行っており、ヴェネツィア・チェシン・ビエンナーレ、ヴェネツィア・チェシン・アート・ミーティング、シネマ・オン・ザ・ボーダー・フィルム・レビューを共同主催している。より専門的で実践的な知識を得るために

2014年、社会・文化アニメーションの分野で学び始める。スコチュフのSt. John Sarkanderギャラリー、チェスキー・チェジンのGalerie MostとGalerie Půda、レグニツァのアートギャラリー、クラクフ、ルブリン、チェジンの都市空間などで作品を発表。)



「サンドボックス」、26,5x26,5 cm、2024年

## アレス・ソトコフスキ (\*1971年、フリデック＝ミシュテック生まれ)

1993年よりロマン派芸術協会「ROMAN」(パヴェル・ブレイスナー、ミハエル・ナヴラティル) 会員、1995年よりオロモウツ芸術家協会会員。パラッキー大学教育学部で美術教育を学ぶ。

オロモウツ在住。長年にわたり、タシズムの要素を取り入れた叙情的な抽象画から、子供のような表現の形式的な絵画、表現的な方法で描かれた幾何学的な抽象画まで、彼の自由画の作品は様々である。さまざまなメディアを駆使してかなりの実験を重ねた彼の作品は、分類不可能で、ほとんど常にコンセプチュアルである。また、木彫りからエポキシ樹脂まで、自由な彫刻も手がける。近年は、様々な拾い物や人工的に作られた要素を、少し皮肉な意味を持つ構図にまとめるアッサンブラージュにも取り組んでいる。



モノグラム、50x30w cm、2024年

## ラディスラフ・シュピルック (※1955年、チェスキー・ティエシン出身)

SPŠS Ostravaで学ぶ-プロモーション・アート

応用グラフィック、特にポスターとフリーアートを専門とする。チェスキー・ティエシンのプダ・ギャラリーのキュレーターであり、過去10年間はチェスキー・ティエシンのAVION文学カフェの展覧会キュレーターも務める。



無題、39x44 cm、2024年



MINISTERSTVO  
KULTURY

この展覧会は、チェコ共和国文化省の資金援助  
を受けて開催される。



## イニシャル

ラディスラフ・シュピルックのキュレーション  
による地域選抜アーティストの展覧会 トウジ

ネツ市立ギャラリー 15/2-29/3/2024

[www.galerietrinec.cz](http://www.galerietrinec.cz)

カタログ発行：トシネツ・シティ・ギャラリー、グラフィック・デザイン：  
ラディスラフ・シュピルック、印刷：Infiniti art s.r.o., Český Těšín